



自治連だより

第31号



ご挨拶

鳥取市自治連合会
会長 南部 敏

令和三年度鳥取市自治連合会総会が五月三十一日、新型コロナウイルス感染症対策により、代議員の皆様による書面表決にて、全ての議案が賛成多数で可決されました。

つきましては、引き続き自治連合会の会長として、『仁恕』の精神で努力して参りますので、会員の皆様のご指導・鞭撻、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、鳥取市は「第十一次鳥取市総合計画」を策定し、今年度から十年計画で進める鳥取市の将来像について発表されました。

本計画が、「活力ある鳥取市、若者が魅力を感じ定住しよう」という鳥取市の実現に向け推進されることに、自治連合会として協力して参りたいと考えています。

「町内会に加入するメリットは何か」とよく聞かれます。町内会は「任意団体」ですので、加入する・加入しないは本人の自由ですが、私は町内会の理念は、困った時はお互い様の精神で、お互いが助け合うことではないかと思っています。みんなが協力し、より良い地域になることで生まれるメリットは必ずあると確信しています。

今後とも、会員皆様のご健勝と、各町内会のご発展を祈念申し上げます、挨拶といたします。

※仁恕：自他を大切に、思いやりのある豊かな実践的な心情。

国府地区

自主映画づくりに挑戦する まちづくり協議会

谷地区活性化協議会

会長 山田 準二

国府町谷地区は、十一集落、四百七十戸あり、二千人弱で構成する、国府町に五つある公民館、まちづくり協議会の中の一地区です。

活動は、多くの協議会で実施している事業と同じようなものに取り組んでいます。新しい事業として、「自主映画づくり」に挑戦していますので、その様子を紹介します。

平成二十九年と三十年の二年間、協議会では、地域の優れた先人五人の功績を学ぶ学習会を、地域の人々を集め、「先人シリーズ」と称し、六回開きました。その後、地域おこしの専門家などのアドバイスをいただき、令和元年に映画づくりへの勉強を行いました。勉強していく中で、鳥取市内に



ワークショップの一場面

映画づくりをサポートしてくれ人がおられ、素人でも映画はつくれることを知りました。協議会で何回もワークショップを開き、慎重に検討し、「因幡の傘踊りの創始者『山本徳次郎』」の自主

映画の制作に取り組むことを決めました。

令和二年には、七月一日に「自主映画制作実行委員会」を立ち上げ、シナリオを手がける制作部、地域内外へのPRを行う広報部、制作に必要なお金を集める資金部の三部会を設置しました。シナリオ制作では、映画のテーマを山本徳次郎の郷土愛、人間愛を描くことに方向を決め、書く人を地元の人三人を選びました。広報では、チラシの制作、講演会を実施しました。資金集めでは、目標額を決め、住民はもとより域内の企業、鳥取市民など幅広く協力を募ることにしました。撮影、編集など映画制作にかかわる費用を約二百万円と想定し、その大部分を鳥取市の「輝く中山間地域創出事業」を活用することにし、残りを協賛金でまかなうことにしました。

令和三年にはいり、シナリオはほぼ完成し、アドバイスをいただいている専門家の最終チェックの段階になりました。出演者、スタッフの募集、衣装、小道具の提供をお願いするチラシもつくり町内全戸に支援・協力をお願いしています。

住民総参加の映画づくりを実行することにより、谷地区活性化協議会の目標である「地域を元気にすること」を達成したいと考えています。



撮影の予行演習

稲葉山地区

町内会活動に
高齢者パワーを生かす

立川町五丁目一区町内会
会長 藤田 祐治



防災訓練

わが町内は、加入戸数百九十戸、十五班で編成している。事業分担として、総務、環境、社会、文化、体育、自警団、子ども会、老人クラブがあり活動している。昨年からコロナ禍により、各事業を軒並み中止とする中で、活動の中に老人クラブ（高齢者）のパワーを町内会のお留守番部隊として生かしてもらい、若者が勤めで不在のウイークデーに、火災などの災害があっても、消火や避難を必要とする場合に備えている。防災訓練の時には、消

火栓から消防ホースへの接続手順などを個々に実践させて習得させ、初期消火に対応できるようにしている。

また、平素から独居老人、障がいのある人、高齢者家



そば打ち

族の人の把握に努め、有事の際に即応できる体制づくりをしている。

その他には、そば打ち事業やウォーキング事業を計画すると、高齢者が指導者になったり、多数の方が積極的に参加して下さり、健康寿命を延ばす一助となっている。

本論外として、昨年、町内会員から側溝に蓋がなくて危険であるとの要望があり、関係先へ照会したところ、溝の深さが基準に満たないから施工は無理とのこと。しかし、「危険」というキーワードがある限り、放置しておくわけにもいかず、再度協議した結果、側溝脇に縁石と側溝両端にポールを設置することで妥協した。危険を聞いた以上、一部苦情もあったが、班長とも相談しており、会長として独断専行した。「後悔先に立たず」...



醇風地区

醇風地区のまちづくり
活動について

醇風地区自治連合会
会長 丸山 博史



ふれあいまつり

人づくり部）を掲げ、四つの専門部のもとに自治連役員、各町内会長、各種団体の代表者ら約五十名の委員で企画運営をしています。

醇風地区は、鳥取市のシンボル久松山を間近に望み、地区の真ん中を袋川が流れる閑静な市街地にあります。地区内人口は約六千人、町内会加入世帯数は約一千九百世帯と年々減少傾向で推移しています。町内会数は四十一町内会、一町内会当たりの世帯数は平均約五十世帯と、昔からの小さな区域の町内会で構成されている地域です。

醇風地区まちづくり協議会は、地区自治連合会を中心に十五の各種団体で構成され、本年度は十三年目を迎えています。

まちづくりの目標①みんなが参加するまちづくり（総務・広報部）、②安全・安心で美しい環境のまちづくり（安全・安心・環境部）、③福祉と健康のまちづくり（福祉・健康部）、④豊かなふれあいと地域に誇りを持つ人づくり（ふれあい



夜ざくら道路

地区の三大行事として「醇風ふれあいまつり」「地区防災訓練」「醇風夜ざくら道路」を毎年実施しており、地域のにぎわいやふれあいの輪を広げる取り組みとして定着してきました。昨年度は、新型コロナの影響で規模縮小を余儀なくされましたが、この三行事については何とか開催することができました。

十回目となった「醇風夜ざくら道路」について、少し紹介させていただきます。

桜の開花時期に合わせて三月二十五日から二週間開催しました。地域の宝であり、市民の憩いの場である袋川右岸の桜土手沿い約一キロ（鹿野橋から出会橋）にわたって、醇風小児童と地域の保育園・幼稚園園児が書いた絵、そして地域住民の川柳・切り絵作品を「手づくりほんぼり」にして約四百五十個を設置し、夜間点灯して彩りました。ささやかな明かりで心豊かな温かい地域づくりに繋がっていけばとの思いです。

最後に、醇風地区においてもまちづくりの地域組織のあり方を検討するため学習を進めています。今後、醇風地区にふさわしい地域づくりを見出し、いけるよう、地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



50周年記念誌

東扇町町内会は、岩倉小学校校区で国府町と接する袋川沿いの地域にあり、今年一月末に町内会誕生五十周年を迎えました。

これに先立ち、記念事業を計画したところが、新型コロナウイルス感染症の出現です。

結局、記念誌の作成だけをすすめ、今年二月に『記録と記憶でたどる足跡と安心安全の未来への懸け橋』と題した五十周年記念誌を町内二百五十世帯に届けました。

記念誌には、広い田んぼの中にわずか二班十九世帯でスタートした町内会が、今日の十班二百五十世帯へと大きく変わった足取りが丁寧に記録されています。



地域もスーパーなど様々な商業施設が充実し、恵まれた生活を過ごすことが出来る環境となっており、その時々先人の活躍の足跡がうかがわれ、感謝しています。

わが町内会の特徴は、誕生時から隣の国府町新通り町内会（自治会）と共同で取り組んだことです。合同運動会は昨年コロナで中止するまで四十七回、納涼祭も四十三回続きました。

春・秋の一斉清掃、公民館も合同です。予想外の災害を心配しなければならぬ今日、助け合える間柄を大切に続けたいと思っています。

令和二年度は、誰もが経験したことのない、コロナ禍での活動を余儀なくされ、自治会やまちづくりの取り組みを基本から考え直さざるを得ない試練の年でした。

そうした中、長年の課題であった、『青少年育成サポーター会議』を設立し、有力な指導者を得て活動を開始することができました。又、十年を経た、『まちづくり協議会の第四次三か年計画の策定』では、バックキャストイングの考え方を取り入れ、コロナ後の世界中での地域のあるべき姿を想定し、それに向かって階段を登るイメージで仕上げました。そして昨年の最大事業は新スタイルでの地区文化祭の開催でした。鳥取市の『若者のまちづくり事業』を活用し、環境大学生四名による企画と実行を頂きました。テーマを『今こそ心つながる文化祭への挑戦』とし、GOTO

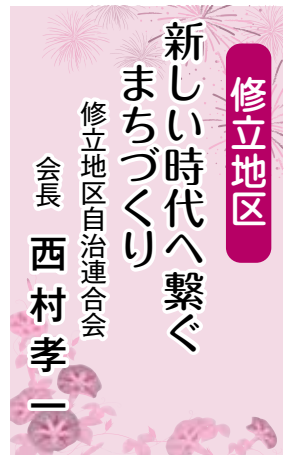


合同運動会



日本最古の力士の墓でクイズに挑戦する小学生

『若者のまちづくり事業』を活用し、環境大学生四名による企画と実行を頂きました。テーマを『今こそ心つながる文化祭への挑戦』とし、GOTO



さて今年度も、その目的を明確にし、安全対策と方法を模索して事業に取り組みますが、念頭に置かざるを得ないのは、校区の再編にも及ぶ少子化と人口減少です。日本中の課題であり、避けられるものではありませんが、幸いに十年前の修立小学校の児童数は百六十六名で、一番の底を打ち、今年度は二百三十二名とやや持ち直しの状態にあることで、若干の猶予を与えられた感があります。

青少年サポーター会議設立時に得た助言の中で『中学校卒業までに公民館に出入りできる仕掛けづくりが、次の時代のまちづくりに不可欠』。この言葉が印象に残ります。地域の若いメンバーによる活性化推進プロジェクト、そして今年度も「若者のまちづくり事業」で鳥大生の力を借りて、新しい時代へ繋ぐ活動を進めます。

修立再発見の旅を合言葉に公民館と各町内集会所の四会場をWeb会議で結びます。事前に撮影した団体やサークル紹介ビデオの放映・ゲームなど延べ四百名(YouTube視聴者は更にプラス)の出演者と参加者となりました。正しく、地域の再発見に皆の笑顔が輝き、成功裡に終えることができました。



地区の文化祭をまとめたDVD (各町配付)

河原地区

河原地域の
まちづくり活動

河原町部落長会

会長 下田祥悟

河原地域は、旧小学校区からなる五地区、四十四集落で形成されています。中山間地域となる各地区的課題は、人口減少、少子高齢化に伴う担い手不足など、周辺地域が抱えるものと違いはありません。

各地区的まちづくり活動を支えているのは、先輩方である六、七十代の方々が中心で、生涯学習、スポーツ・レクリエーション、地域防災活動など幅広く、地域をつなぐ活動を進められています。

河原地区では、コロナ禍での防災活動の取り組みとして、集落単位での災害時避難訓練を地区一斉に行い、安否確認や避難者、被害状況の報告などをルールに基づいて行動できるよう組織づくりが進められています。

八上地区では、隣の西郷地区と合同で



河原地区防災訓練

地域の名所を巡る交流ウォークを開催し、他地区との協働・連携を図る活動に取り組まれています。

国英地区では、本年四月から地区のまち協にあたる「いきいき国英ふるさとづくり協議会」により、地域生活交通を確保するコミュニティバスの運行が開始され、小学生の通学、高齢者の通院、買い物支援などに活用されています。



いきいき国英コミュニティバス

また、散岐地区においても、まち協を中心とした組織を立ち上げ、令和四年度のコミュニティバス運行開始へ向けた取り組みが進められています。

西郷地区では、現在、同地区および隣接地域にかけて計画されている、風車建設に対して、暮らしや自然環境に与える影響への懸念から、地区内全集落、むらづくり協議会及び小学校PTA、保育園保護者会による反対決議文を事業者、県、市に提出し、地区全体で連携し対処していく旨の表明がなされました。

このように、様々な地区の課題に向き合いながら、河原地域のまちづくりに取り組んでいます。

鳥取県自治会連合会の動き

令和二年度

◆第二回正副会長会

(二月三日、米子市文化ホール)

◆中四国自治会連絡協議会

(二月) 開催中止

令和三年度

◆令和二年度監査会

(四月九日、米子市)

◆第一回正副会長会

(四月) 開催中止

◆令和三年度総会及び研修会

(五月二十五日、倉吉市役所)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、書面表決となった。

◎総会

・令和二年度事業報告及び収支決算報告、監査報告

・令和三年度事業計画(案)及び収支予算(案)

・役員選出

会長	笠見 猛	(倉吉市)
副会長	南部 敏	(鳥取市)
副会長	奥田 登	(米子市)
理事	生田 均	(倉吉市)
理事	齋木 英宏	(倉吉市)
理事	林 達夫	(倉吉市)
理事	土橋 周美	(鳥取市)
理事	新 潤一	(鳥取市)
理事	福田 正美	(鳥取市)
理事	中村 克彦	(鳥取市)
理事	西原 牧夫	(鳥取市)
理事	新見 博士	(米子市)
理事	加藤 朗	(米子市)
理事	高橋 誠一	(米子市)
理事	脇坂 喜啓	(米子市)
理事	涌嶋 博文	(倉吉市)
監事	米原 功	(倉吉市)

以上、原案通り承認されました。

後記

今回広報委員会の委員長に任命され、責任を感じています。皆さまの指導を受けながら、役割を全うしてまいりますので宜しくお願い致します。

令和三年も新型コロナウイルスは治まりそうになく、自治会の事業、行事等が自粛されています。コロナワクチン接種も進みつつありますが、早く新型コロナウイルスが終息し、日常生活が送れるように願いたいと思います。

(広報委員長 新 潤一)